

仙台空港から 東アジアなどの主要都市へ

仙台空港は、東日本大震災の津波によって大きな被害を受けながら、半年後には空港ビルの完全復旧と国際線を含む定期便の運航再開を果たし、復旧・復興の象徴となりました。平成28年7月1日からは、国管理空港の民営化第一号として、仙台国際空港株式会社による運営がスタートし、民間のノウハウを生かした空港運営がなされており、更なる航空路線の充実や空港利用者の増加に向け、官民一体となって取り組んでいます。また、仙台中心部（JR仙台駅）と仙台空港駅を25分でダイレクトに繋ぐ仙台空港アクセス線により、渋滞の心配もなく正確かつ短時間でのアクセスが可能です。



▲仙台空港ターミナルビル

●国内航空路線（定期便）

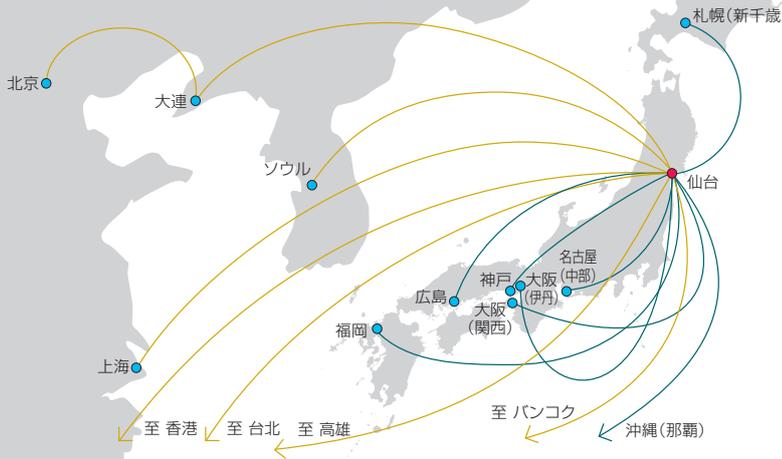
（令和8年2月1日現在）

都市名	最短時間	便数	都市名	最短時間	便数
札幌（新千歳）	1:10	1日 15往復	神戸	1:30	1日 2往復
名古屋（中部）	1:15	1日 6往復	広島	1:40	1日 3往復
大阪（伊丹）	1:20	1日 14往復	福岡	2:15	1日 7往復
大阪（関西）	1:45	1日 3往復	沖縄（那覇）	3:10	1日 1往復

●国際航空路線（定期便）（令和8年2月1日現在）

都市名	最短時間	便数
ソウル	2:30	週 5往復
大連/北京	2:40/5:20	運休
上海	3:40	運休
香港	4:10	週 9往復
台北	4:10	週 17往復
高雄	4:40	週 3往復
バンコク	7:30	週 4往復

※2025年冬ダイヤ（10月26日～3月28日）
※便数等は変更になる場合があります。



仙台空港における貨物取扱の特徴

仙台空港にある貨物ターミナルは、高性能な「冷凍・冷蔵庫」や「燻蒸庫」、最新型の「爆発物・麻薬同時微量検知器」を導入し、物流新時代に対応した設備を備えています。また、成田や羽田といった大規模空港のような税関や検疫の手続き待ちの混雑もなく、リードタイムの短縮が可能です。



▲国際貨物棟



▲冷凍・冷蔵庫



▲燻蒸庫



▲爆発物・麻薬同時微量検知器
IONSCAN 500DT

仙台空港乗降客数・航空貨物取扱実績

仙台空港の乗降客数は、震災後、空港施設の復旧や運休路線再開などにより順調に回復し、その後、新型コロナウイルス感染症の影響により乗降客数が大きく減少しましたが、令和6年度には過去最高の380万人となりました。また、貨物取扱量は、施設が被災した影響などにより減少しましたが、令和元年度は震災前と比べて約5割まで回復しました。その後、コロナ禍での旅客便の運休等により再度取扱量が減少し、令和2年度以降は2千トン前後で推移しています。

